

大阪大学ワンダーフォーゲル部
創部 60 周年記念行事企画 趣意書

2017 年 5 月

大阪大学ワンダーフォーゲル部

60 周年記念行事実行委員会

0. 趣意書の改訂にあたりまして

本年に入ってすぐの頃、OB・OGのみなさまに60周年記念行事趣意書を初めてお送りさせていただきました。とはいえ、その頃はまだまだ細かく決まっていなかった企画内容もあつたほか、住所の把握が不完全だったためきちんとお届けできず戻って来てしまうものもありました。

このたびは、以下に詳述する各企画の内容がさらに進みましたことと、まだ趣意書をお届けできていないOB・OGのみなさまにもこの60周年記念行事のことを深く知って頂きたい、改訂版趣意書を発行いたします。

1. 記念行事趣旨

我らが大阪大学ワンダーフォーゲル部は、来年2018年で創部60周年という、人間でいう所の還暦を迎えます。人間にとっての60歳は、その人生においても大きな節目の一つです。それは還暦の習わしに従い、原点に戻るという意味でもあり、次なるステージへの一歩を踏み出す時でもあります。今まさに、我が部はその時を迎えています。大阪大学ワンダーフォーゲル部がこの世に生まれてから今に至るまで、多くの部員がこの部に所属し、移り行く時代の中で、自然と共に様々な活動を行ってきました。そして長い時の流れの中、我が部の活動も変化を繰り返し、今という時代にあつた形へと姿を変えてきました。そこで不意に思うことがあります。

「大阪大学ワンダーフォーゲル部とは何か」

この還暦という年は、まさにその意味を考えるに相応しい時ではないでしょうか。

まずは原点を振り返り、我が部の起源を探するという観点から、『中央アジア（シルクロード）遠征合宿』を行います。そして今後のさらなる我々の活動の在り方を求めて、交通の便の発達等により、近年非常に身近となった台湾にて『台湾一周自転車合宿』を行います。我々はこの二本柱の合宿を、我が部について真摯に考える機会とします。

また『OB参加型企画』を通じ、遠方に散るOB・OGのみなさまに再び大阪大学ワンダーフォーゲル部の風を感じて頂くと共に、現役との交流により、時代を超えた活動の模索を行いたいと思います。

大阪大学ワンダーフォーゲル部がこれからも存続し、発展を続けていくためには、より多くのOB・OGと現役部員、相互の力が必要になってきます。部の一人一人、皆が一丸となり、60周年記念行事を成功に導き、そして次なる10年への躍進の一歩を踏み出しましょう。皆様のご協力、心からお願い申し上げます。

60周年記念行事実行委員会 実行委員長 60期 宋宏樹

2. 記念行事項目

- 中央アジア(シルクロード)遠征合宿
- 台湾一周自転車合宿
- OB 参加型企画
- 『霧』特集号の発行
- 山小屋修繕
- 創部 60 周年記念祝賀会
- 記念行事予算

3. 中央アジア(シルクロード)遠征合宿概要

3.1 趣旨

「還暦という廻りの年、世界を巡るは渡り鳥の如く」

我が部において、その活動の根幹をなす「ワンダーフォーゲル＝渡り鳥」という、各地を旅してその身で渡り歩く精神は、山岳、島、道、多くの場所で、様々な活動の形で代々受け継がれ、行われてきました。

O.U.W.V 創部 60 周年という還暦年に、我々がやりたいこと、それは「ワンゲル本来の意味に“還る”」ことと「日本の源流に“還る”」ことです。「ワンゲル本来の意味に“還る”」とは、地に足をつけ各地を渡り歩き、ワンダーフォーゲルという言葉の意味に立ち返るということで、「日本の源流に“還る”」とは、我らの祖国、日本という国の根底にあるもの、つまり文化について見つめ直すということです。

中央アジアはシルクロードを通して様々な文化が栄えた地であり、日本文化に大きな影響を与えました。また、周りに広がる自然は、砂漠、高山、湖、溪谷等、我々の体験したことのない多種多様な世界を見せてくれるでしょう。この地を渡り歩き、現地交流を通じてその地の人や文化に触れ、日本文化の起源を知るという経験は自らの世界を広げると共に、日本という国の素晴らしさを再確認する機会にもなるはずです。加えて我が部では、記念行事がヨーロッパで初めて行われ、半還暦たる 30 周年には中国で記念行事が行われました。さながら自国へ戻る渡り鳥の如く、還暦という廻りの年にこの道を行くことで、古来の人々がどこを渡り歩いてこの島国に何を伝えようとしたのか。それを自分達の足で辿り、自分達の目で確かめ、自分達の身体で感じる事ができるのです。

3.2 期間

2017 年 8 月 19 日(土)～9 月 14 日(木)

3.3 地域

中国 (ウラムチ)・カザフスタン・キルギス・ウズベキスタン

3.4 メンバー

60 期 大前 直輝(PL.) 澁谷 祐太(S.L.) 鈴木 雄太(FL.)
宋 宏樹(FL.) 山田 修司(FL.)

61 期 佐藤 雅也 山内 一輝

※上記のメンバーに加え、2017 年入部の 62 期 (3 名程度) も参加します。

3.5 地域・活動内容

本合宿では、中国(ウルムチ)・カザフスタン・キルギス・ウズベキスタンの4つの地域で活動を行います。本項では各地域を紹介し、そこでの活動内容を述べます。

また遠征は、シルクロードを往った古来の人々にならって、可能な限り陸路で進められます。空より大陸側起点の上海に降り立ち、以降鉄道と自動車のみを用いて移動していきます。

最初は中国のウルムチという都市からです。ウルムチは新疆ウイグル地区にある西部最大の都市であり、古来より中華圏よりイスラム圏との結びつきが強いことが挙げられます。言語は中国語・ウイグル語です。

ウルムチでの活動は、砂漠トレッキングです。クムタグ砂漠という砂漠を3日かけてほぼ直進するというものです。気温は日中で35℃程度ですが、夜間は20℃以上気温が下がることもあり防寒対策が必要になる一方で、暑いことには変わりはなく、日中は避けて休憩し、基本的に朝方と夕方にトレッキングをすることになっています。

2つ目の地域はキルギスです。気候について、夏期には都市部は最高気温40℃にも達するという地域になります。言語はキルギス語が国家語、ロシア語が公用語であり、英語はほとんど使えません。

キルギスでの活動は、アルティンアラシャン、およびアラコル湖を目指す秘境トレッキングです。スタート地点からアルティンアラシャンまで14kmのトレッキングをし、そこからさらに往復12時間の行程でアラコル湖へ向かいます。

3つ目の地域はカザフスタンです。ここでは、同国の南東部に位置する都市アルマティにて、渓谷地帯トレッキングや登山を行います。場所は、チャリンキャニオンとメデウ峰で、チャリンキャニオンはミニグランドキャニオンと呼ばれ、日本では目にすることのできない独特の地形と景色を堪能でき、メデウ峰はアクセスも良く、手軽に3000m峰に登ることができます。

また、日本について勉強している現地の方々に協力していただき、現地交流も行うことになっています。こちらから日本についてプレゼンしたあと、互いの国民食をふるまう予定です。

ゴールとなるのはウズベキスタンです。同国の都市サマルカンドはモスクの色から「青の都」と呼ばれ、またシルクロードの交差点として今なお多くの人が行き交う町です。このサマルカンドで、シルクロード遠征合宿は締めくくりとなります。

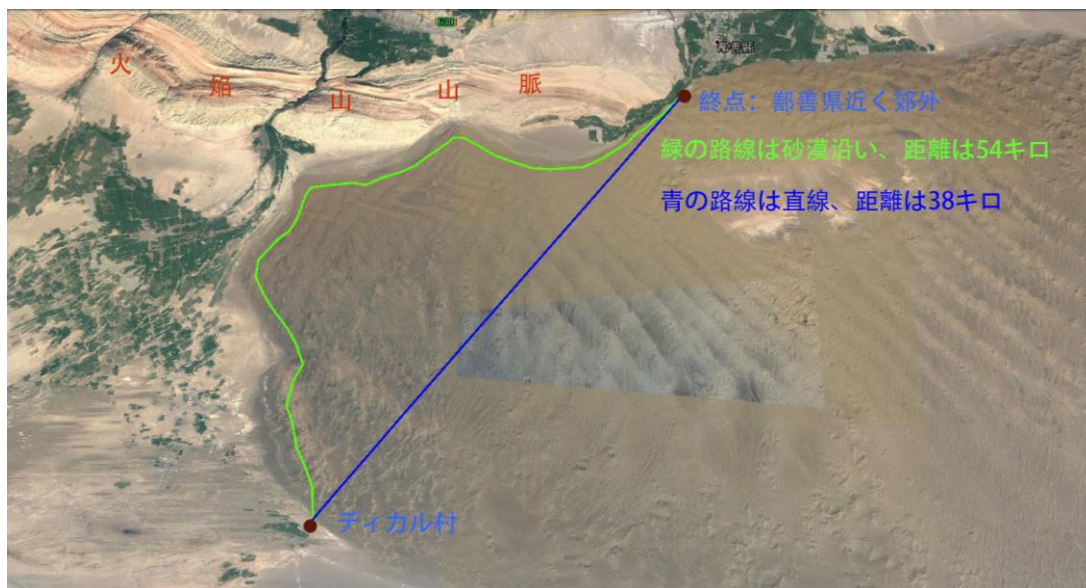
3.6 日程

- 8月19日(土)：関西国際空港集合(前泊)
- 8月20日(日)：関西国際空港発→浦東国際空港→上海駅→車両泊
- 8月21日(月)：列車内にて車両泊
- 8月22日(火)：ウルムチ南駅着→休養と準備→Urumuchi Lisen Business Hotel 泊
- 8月23日(水)：バスにてディカル村に移動
- 8月24日(木)：砂漠内にてトレッキング開始(行程6時間)
- 8月25日(金)：砂漠内にてトレッキング(行程6時間)
- 8月26日(土)：鄯善県郊外着(行程6時間)→バスでウルムチ南駅に移動→車両泊
- 8月27日(日)：列車内にて車両泊
- 8月28日(月)：アルマトイ2駅着→サイランバスターミナルに移動
→マルシュートカーにて西バスターミナルに移動
→ビシュケクの Sakura Guesthouse 泊
- 8月29日(火)：ビシュケクにて休養と準備
- 8月30日(水)：メインバスステーション110→カラコルの Teskey Guesthouse に移動
- 8月31日(木)：バスにてトレッキングコース入口に移動
→トレッキング→アルティンアラシャン小村着(行程5時間)
- 9月1日(金)：アルティンアラシャンにて休養と準備
- 9月2日(土)：トレッキング→アラコル湖にて宿泊(行程5時間)
- 9月3日(日)：トレッキング→アルティンアラシャン小村着(行程4時間)
- 9月4日(月)：トレッキング→アクスー村着(行程5時間)
→バスにてカラコルの Teskey Guesthouse に移動
- 9月5日(火)：バスにてメインバスステーション110に移動
→ビシュケクの Sakura Guesthouse 泊
- 9月6日(水)：ビシュケクにて休養と準備
- 9月7日(木)：西バスターミナル→マルシュートカーにてサイランバスターミナルに移動
→カザフスタンの sky Hostel Almaty (以後カザフスタンの拠点) 泊
- 9月8日(金)：カザフスタンにて休養と準備
- 9月9日(土)：カザフスタンにて現地学生と交流
- 9月10日(日)：カザフスタンにて休養と準備
- 9月11日(月)：カザフスタンのメデウ峰にてトレッキング(行程8時間)
- 9月12日(火)：チャリンキャニオンにてトレッキング(行程3時間)
- 9月13日(水)：列車とバスにてシムケントに移動
- 9月14日(木)：列車にてゴールのサマルカンド(ウズベキスタン)に移動

ウズベキスタンで一泊したのち、韓国を經由して帰国(便未定につき詳細は後日決定)

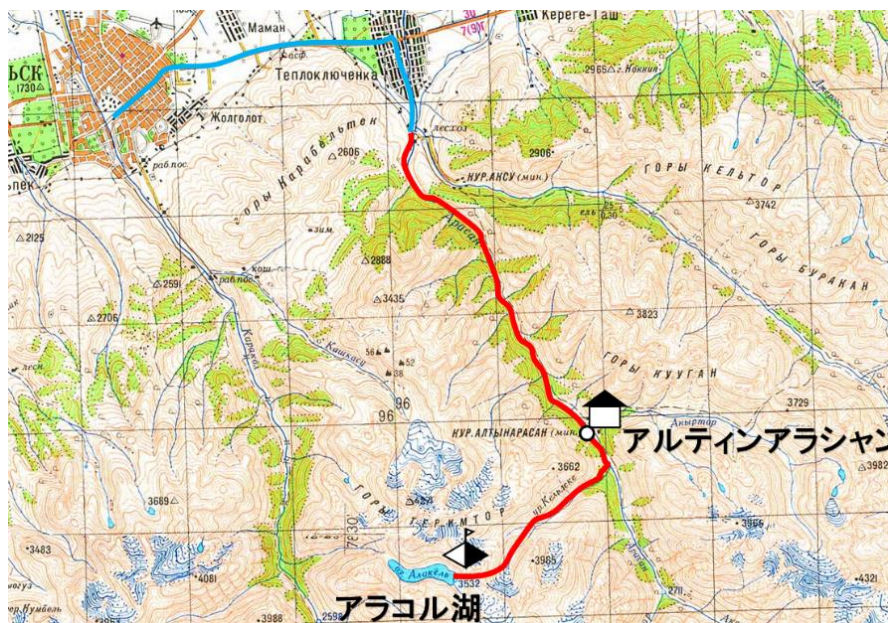
3.7 地域概念図

3.7.1 ウルムチ（中国）



※直線の青ルートを通る。（緑は緊急時の車道沿いのルート）

3.7.2 ビシュケク（キルギス）

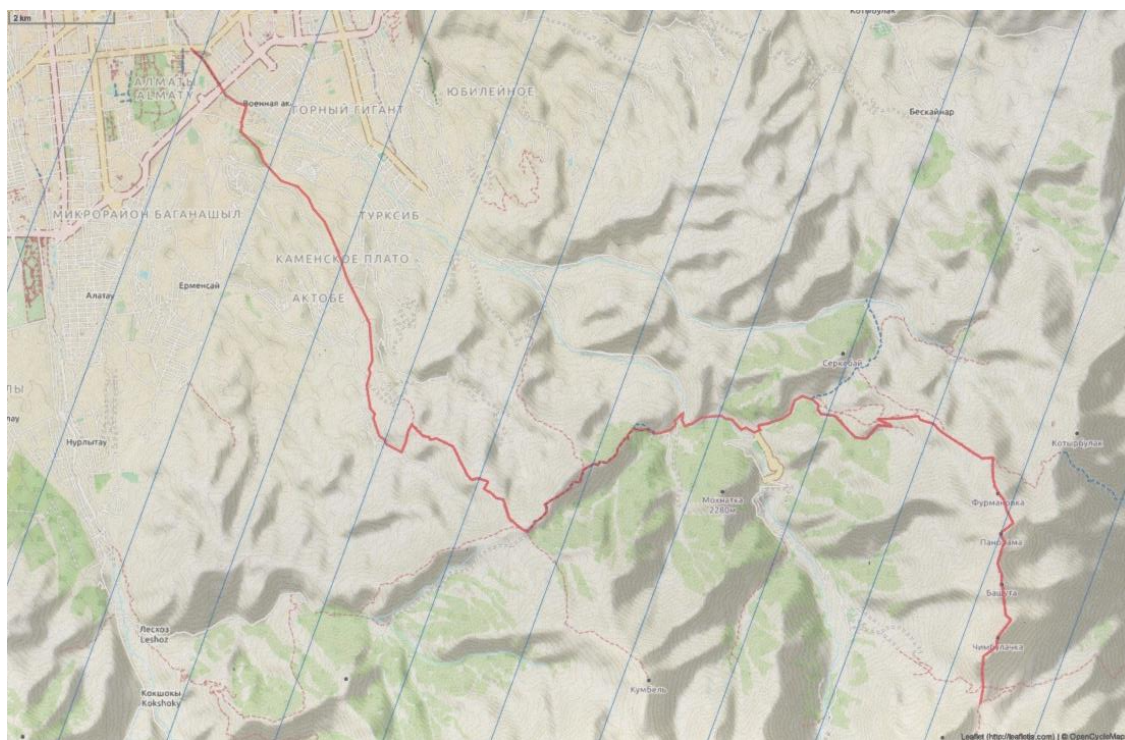


3.7.3 アルマトイ (カザフスタン)

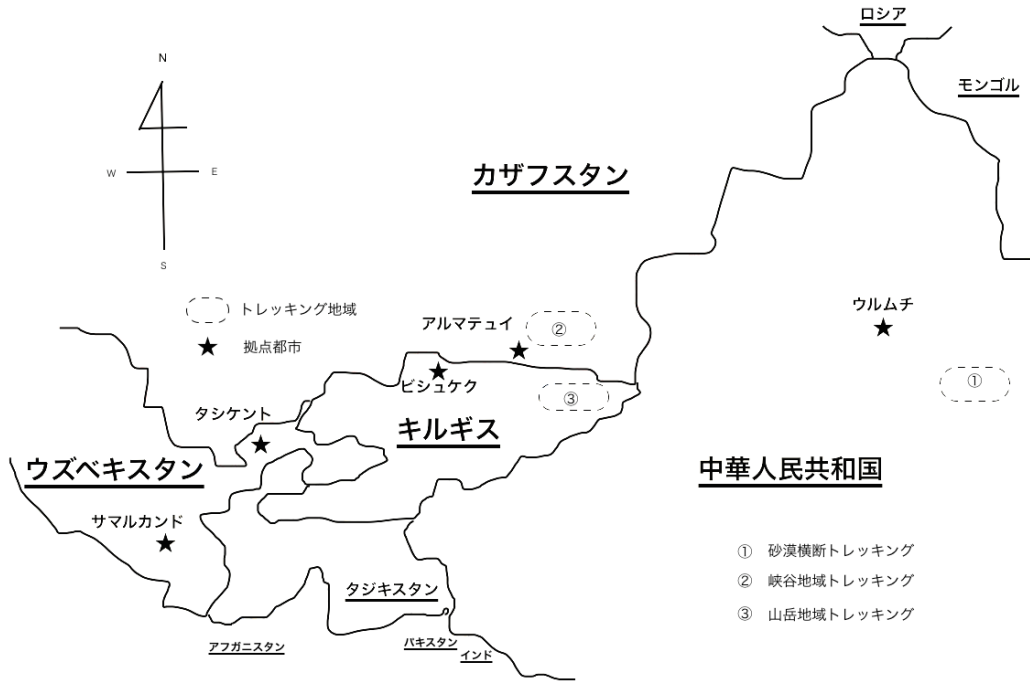
チャリンキャニオン



メデウ峰



3.7.4 全体概念図



4. 台湾一周自転車合宿概要

4.1 趣旨

台湾は日本と地理的に近く、歴史的にもつながりの深い地域です。また、中国語に加えて英語や日本語でのコミュニケーションも図ることができるなど、他の地域に比べて交流は容易です。数週間をかけて一周することで、台湾全土の文化や自然を肌で感じ、現地の人々との接触の中で、日本と異なる台湾独特の情緒を間近に感じる事ができるでしょう。また、中国本土や日本も関わる台湾問題を現在に至るまで抱え、各地に少数民族の暮らしている土地に長期間滞在する事は、参加メンバーの国際的関心を高め、国際感覚を養う事にも繋がります。

以上に加えまして、ワンダーフォーゲル部内において近年特に比重を成している自転車合宿の一つの集大成として、通常の春合宿ではなかなか実現の難しい長期の自転車合宿の経験やノウハウを次世代に伝える事が期待できます。台湾での長期活動によって得られた生の情報は、次世代の糧となって阪大ワンゲルの活動の幅をさらに大きく広げてくれる事でしょう。

4.2 期間

2018年2月～3月

春合宿の形をとり、2～3週間で合宿を行います。

4.3 地域

台湾全土

4.4 メンバー

60期 三原 健 (P.L.) 澁谷 祐太(S.L.) 金丸 純也 (F.L.)

61期 山本 晃平

※上記のメンバーに加え、2017年入部の62期（3名程度）も参加します。

4.5 地域情報とコース状況

台北～新竹

本合宿最初のこのコースは曲がりくねった地形で、短い登り坂や緩やかな下り坂を進んでいきます。地元グルメや、台湾で一番長いとされる三峽老街、壮大な石門ダムなど、この日のルートは格別な趣があります。新竹「廟口」に入ると、国家三級古跡に指定されている城隍廟が迎えてくれます。

新竹～台中

西濱快速道路（台 61 線）を走る際に、追い風をいっぱいに受けることができます。風の強い沿海地域では、いくつもの白くて巨大な風車がダイナミックに回っているのが見られます。累積標高が 200m 程の大肚山の頂上まで登ると、風穏やかで日うららの台中市に到達します。

台中～嘉義

この日の地形は平坦で、道中、台中彩虹村・田尾道路花園・西螺大橋・嘉義公園などたくさんの観光名所を通過します。なお、台 1 線を走る時や市の中心に近づいた時は、混雑した道路状況に注意が必要です。

嘉義～高雄市

終点まで台 1 線を走るコースで、南北交通の大動脈と言えるルートです。またこのルートでは、悠久の歴史を持つ台南古城と南台湾で一番賑やかな大都市高雄に入ります。南方へ行けば行くほど情熱の国、台湾を感じることができます。

高雄市～車城

港町、高雄市は CNN で「サイクリングに適したアジア五大都市の一つ」に選ばれ、台湾国内ではサイクリングに最も適した都市です。ルートの前半は平地が主で、追い風を受けることができます。また後半は、左手に山、右手には海岸の丘陵を楽しめます。山海の絶景が台湾一周の魅力的なポイントの一つです。

車城～台東市

寿峠のきつい登りを避けて、海岸沿いに進みます。東部に近づくほど、行き交う数々の車両が少なくなり、山や海の自然も豊かになっていきます。

台東市～玉里

花東縦谷での多様な風景は四季に従い変化し、それぞれの風采があります。田舎道やレトロ感満点の列車など、古風な雰囲気が漂う未知の土地を巡る旅行の楽しさが感じられます。

玉里～花蓮市

台 9 線にある並木道は花木がよく茂り、味わい深い風景が続きます。ここでは台湾特有の人文の美と探索の旅のディープな感動が味わえます。

花蓮市～礁溪

普通列車に乗り 100km 進んだ後※、自転車で 29km 行くと温泉町である礁溪に到着します。※砂利を積んだトラックや大型貨物トラックが猛スピードで走っており、代替道路はないため列車を使うほうが安全です。

礁溪～台北市

九湾十八拐の登坂はきつく、海拔約 530m の頂上は本合宿で一番高い場所です。沿道の絶景を励みに登ります。台湾一周チャリ一番の過酷なコースを乗り越えると、ゴールの台北市まで下り坂と平坦な道です。

4.6 日程

1 日目：関西国際空港発→桃園国際空港着→台北に移動	(26km)
2 日目：台北→新竹	(81km)
3 日目：新竹→台中市	(100km)
4 日目：台中市にて休養	
5 日目：台中市→嘉義	(94km)
6 日目：嘉義→永康	(62km)
7 日目：永康→高雄市	(53km)
8 日目：高雄市にて休養日	
9 日目：高雄市→車城	(87km)
10 日目：車城→旭海	(74km)
11 日目：旭海→大武	(43km)
12 日目：大武→台東市	(57km)
13 日目：台東市にて休養日	
14 日目：台東市→玉里	(85km)
15 日目：玉里→花蓮市	(88km)
16 日目：花蓮市にて休養日	
17 日目：花蓮駅→電車にて蘇澳新駅着→礁溪	(29km)
18 日目：礁溪→台北	(72km)
合計走行距離：951km	

4.6 地域概念図



5. OB 参加型企画

5.1 趣旨

大阪大学ワンダーフォーゲル部は、当然のことながら現役部員のものだけでなく、今までこの部に在籍していた数多くの先輩方のものでもあります。しかし近年、現役部員と OB・OG のみなさまとの交流が徐々に希薄になってきております。

そこで現役と OB・OG とが合同で行う企画を作成することにいたしました。これを機に、現役と OB・OG のみなさまとの繋がりをより強固なものにすると共に、OB・OG のみなさま同士の繋がりの構築、時代を超えた部員同士による、我らが部に対する思いの共有の場になるのではないのでしょうか。加えてみなさまには、現役部員の持つ熱に触れて頂くことにより、再び当時のワンダーフォーゲルに対する熱い思いを呼び覚まし、共に楽しんで頂ければと思っております。

5.2 企画概要

具体的な話としましては、2016 年 11 月末頃にお送りしました OB・OG のみなさまへのアンケートを参考に、共同で行う企画についての内容を決定いたしました。内容は関東や関西、中部での日帰りハイキングや 1 泊 2 日の合宿を予定しています。まずは、2017 年 9 月 23 (土) に関東は丹沢山系の大山において日帰りハイキングを行い、その後 OB・OG のみなさまと親睦会を兼ねた飲み会を行います。次に 2018 年 3 月 3 日 (土) に関西で日帰りハイキングと飲み会を行います。こちらの山域は未定です。来年度の夏には、関東で 1 泊 2 日の合宿を、関西で大規模な山小屋 W (項目 7.に記載しております山小屋修繕)を行います。また時期は未定ですが、来年度に中部でも 1 泊 2 日の合宿を行う予定です。

また合宿参加は期間上難しいですが、OB・OG のみなさまの知識を継承するための合宿として、近年行われていなかった筏合宿を 2017 年 9 月末頃に復活させることとなりました。

OB・OG のみなさまにおかれましては、ハイキングや合宿はもちろん、体力や時間的に難しい方も、親睦会を兼ねた飲み会だけでも、奮ってご参加いただければ幸いです。

6. 『霧』特集号の発行

60周年記念行事のまとめとして、記念誌たる『霧』特集号を発行します。中央アジア(シルクロード)遠征合宿や台湾一周自転車合宿における活動記録を掲載すると共に、OB参加型企画における活動記録を地域毎に掲載いたします。

その他山小屋修繕の成果報告や50周年以降における10年の合宿総覧を、また外大ワンゲルとの合併に寄せてのお話などOB・OGのみなさまからの寄稿を掲載いたします。さらに、OB・OGのみなさまにはいくつかのアンケートをご回答いただき、その結果をコラムとして随所に折込む予定となっております。

皆様からのたくさんの寄稿・アンケートご回答をよろしく願いいたします。詳細は別途用紙をご覧ください。

7. 山小屋修繕

7.1 趣旨

我らが暮雪山荘は、創部 20 周年の折に「部の保有する山小屋が欲しい」という強い願いのもと計画され、建設における土地の選定から交渉、設計、荷揚げ、施工まで全ての工程において O.U.W.V.の力のみで完成しました。そして、山小屋委員会が設置され、毎年の現役部員と OB・OG に次々と引き継がれ、協議を行い、暮雪山荘の保全に努めてまいりました。

その営々たる努力のおかげで、現在でも暮雪山荘は、春は新歓合宿として新 1 回生を O.U.W.V.に迎え入れる場として、秋の山小屋 W や冬 PW では現役部員と OB・OG の交流の場として使われております。また、現役の合宿だけではなく、多くの OB・OG が個人としても利用されております。暮雪山荘があるからこそ、集い語り合うことが可能となっており、当部にとってかけがえのない貴重な財産の一つです。

ただし、毎年、補修作業を実施し、比良の風雪に 40 年近く耐え続けて今もなお山小屋としての機能を十分に維持しているとはいえ、いくらかの経年劣化や使い勝手の悪い部分が生じ始めていることも事実です。しかし、施工当時に使用していた索道が廃止されてしまい、資材はすべて人力で麓から上げざるをえず、時間的な制約のため、例年の作業の中では十分な対応ができておりません。

そこで、築 40 年を迎える創部 60 周年という節目のこの時期に大幅な修繕を行いたいと考えています。今回の修繕によって、今までよりも快適に過ごすことのできる暮雪山荘とすることで、現役部員はもちろん、OB・OG のみなさまにも更にご利用いただけるような暮雪山荘にしていきたいと考えております。

7.2 実施時期

2018 年度(来年度)中に作業を実施します。60 周年企画のメイン企画である中央アジア合宿、並びに OB 参加型企画の一部が 2017 年度の夏休み(8 月~9 月)に実施されることを考慮しました。できるだけ多くの方々に参加していただきたいと思っております。

7.3 参加メンバー

山小屋委員会が主体となって計画を策定し、労力奉仕は現役世代(61 期~63 期)が主力となります。さらに、新築時のように多くの OB・OG のみなさまにご参加いただき、暮雪山荘が親しみのある存在となるように願っております。

7.4 実施予定作業の内容

予定している作業内容としては、劣化により斜度が急になり登りにくくなっている階段の付け替え、木道の大幅な新調、荷物の収納や衣類の乾燥などのスペースに充てるために台所と土間を隔てている壁の撤去すること、などを検討しています。そのほか、今回の趣旨にもあるように、より多くのOB・OGのみなさまにも暮雪山荘を利用していただくために、OB・OGのみなさまからのご意見も頂戴して作業内容に柔軟に反映できたらと考えております。具体的な作業内容は2017年度中に決定します。

7.5 予算

山小屋委員会では今回の改修作業において¥1,000,000程度が必要になるのではないかと見積もっております。

先に述べさせていただいたように、施工当時の索道が現在では廃止されているために、資材の運搬にかなりの費用が嵩むこと、多くの資材を必要とすることなどから、かなりの労力と費用が見込まれます。現役部員も全力を尽くしますが、OB・OGのみなさまには特に資金調達の面でお力添えを頂きますようお願い申し上げます。

8. 創部60周年記念祝賀会

ワンダーフォーゲル部員が一堂に会して創部60周年を祝う場として、2018年秋に創部60周年祝賀会を予定しております。またこの祝賀会では、中央アジア(シルクロード)遠征合宿や台湾一周自転車合宿、OB参加型企画や山小屋修繕の成果を報告する予定です。

9. 記念行事予算

この度の記念行事開催に伴う費用概算と寄付金目標金額の詳細は以下の通りとなっております。

○中央アジア（シルクロード）遠征合宿 10人計算

（内訳）交通費	¥952,150
宿泊費・ツアー代金	¥409,060
VISA申請費	¥25,000
食費	¥260,000
雑費	¥350,000
（消費総額）	¥1,996,210
（現役負担分）	¥1,000,000
（寄付目標）	¥996,210

○台湾自転車一周合宿 7人計算

（内訳）交通費	¥339,500
宿泊費・ツアー代金	¥350,000
食費	¥189,000
雑費	¥144,000
（消費総額）	¥1,022,500
（現役負担分）	¥700,000
（寄付目標）	¥322,500

○OB参加型企画 ¥500,000

○「霧」特集号の発行 ¥180,000

○山小屋修繕 ¥1,000,000

○その他雑費（郵送料など） ¥600,000

合計寄付目標 ¥3,598,710

○寄付金到達目標

（各合宿が行なわれることから、最低限その時期に必要な金額）

・2017年7月末まで¥1,100,000

・2018年2月末まで¥2,000,000

・2018年7月末まで¥3,600,000

寄付金の納付方法につきましては別紙ご参照ください。

寄付金へのご協力のほどよろしくお願いいたします。

大阪大学体育会ワンダーフォーゲル部
創部 60 周年記念行事趣意書

2017 年 5 月 発行

発行責任者	実行委員長	宋 宏樹
	部長	茶谷 直人
	OB 会理事長	井内 健
	60 期主将	三原 健

発行元 60 周年記念行事实行委員会